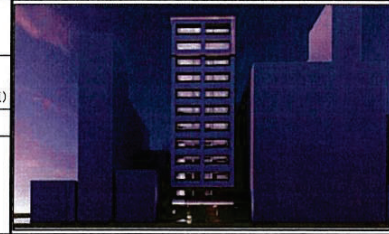




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)南4条西6丁目建築計画	階数	地上12F、地下0F
建設地	北海道札幌市中央区南四条西六丁目10-1,10-3	構造	RC造
建物用途	ホテル	平均居住人員	90 人
竣工年	2027年2月 予定	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
敷地面積	443 m ²	評価の段階	実施設計段階評価
建築面積	327 m ²	評価の実施日	
延床面積	2,851 m ²	作成者	
		確認日	
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 建築環境SDGsチェックリスト評価結果	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.9 ★★★★★ B-</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★</p> <p>環境品質 Q</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>
<p>2-4 一次エネルギー消費量の評価</p> <p>建物全体の[BEI][BEIm]</p> <p>ZEB/ZEH-Mランク</p> <p>0.72</p> <p>非該当</p>		

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 2.8</p> <p>音環境 3.3</p> <p>温熱環境 2.0</p> <p>光・視環境 2.9</p> <p>空気質環境 3.4</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 2.6</p> <p>機能性 2.5</p> <p>耐用性・信頼性 2.9</p> <p>対応性・更新性 2.5</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 1.7</p> <p>生物環境 1.0</p> <p>まちなみ・景観 2.0</p> <p>地域性・アメニティ 2.0</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 4.0</p> <p>建物外皮の熱負荷 4.2</p> <p>自然エネルギー 3</p> <p>設備システム効率化 4.6</p> <p>効率的運用 3</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 2.9</p> <p>水資源保護 2.2</p> <p>非再生材料の使用削減 3.0</p> <p>汚染物質回避 3.3</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.1</p> <p>地球温暖化への配慮 3.9</p> <p>地域環境への配慮 2.4</p> <p>周辺環境への配慮 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。</p> <p>ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。</p>	<p>A 省エネルギー</p> <p>BPI= 0.88。</p> <p>BEIm= 0.72。</p>	
<p>B 省資源等</p> <p>LGS使用している。</p> <p>ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。</p>	<p>C 緑化</p> <p>特になし。</p>	<p>D 雪処理</p> <p>特になし。</p>

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(一財)住宅・建築 SDGs 推進センターのCASBEE認証	-	BELS認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用	-	LEED認証	-

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 環境品質Q=25×(Qのスコア-1)、環境負荷L=25×(5-LRのスコア)より算出

CASBEE_Sapporo2021v1.0
(仮称)南4条西6丁目建築計画

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE_Sapporo2021v1.0

■評価ソフト: CASBEE札幌2021 (ver.1.0)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質							2.4
Q1 室内環境				0.40		-	2.8
1 音環境			3.4	0.15	3.2	1.00	3.3
1.1 室内騒音レベル		—	3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音			5.0	0.40	3.6	0.40	
1 2 開口部遮音性能		開口部遮音性能:T-2以上。	5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		—	-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—	-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—	-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		—	1.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境			2.0	0.35	2.0	1.00	2.0
2.1 室温制御			3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温		—	3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能	省エネ	—	3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性		—	3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		—	1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式		—	1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境			2.4	0.25	3.3	1.00	2.9
3.1 昼光利用			3.0	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率		1.25% ≤ [昼光率]	3.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口		—	-	-	-	-	
3 昼光利用設備	省エネ	—	3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策			1.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御	省エネ	—	1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		—	3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		—	3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境			3.1	0.25	3.6	1.00	3.4
4.1 発生源対策			4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気			3.0	0.30	3.0	0.38	
1 換気量		—	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		—	-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		—	3.0	0.50	3.0	0.33	

4.3 運用管理				1.0	0.20		-	
1	CO ₂ の監視		-		-		-	
2	喫煙の制御		-	1.0	1.00		-	
Q2 サービス性能					0.30	-	-	2.6
1	機能性			2.4	0.40	2.6	1.00	2.5
	1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	3.0	0.60	
	1	広さ・収納性	-		-	3.0	0.50	
	2	高度情報通信設備対応	-		-	3.0	0.50	
	3	バリアフリー計画	-	3.0	1.00		-	
	1.2 心理性・快適性			1.0	0.30	2.0	0.40	
	1	広さ感・景観	-		-	3.0	0.50	
	2	リフレッシュスペース	-		-		-	
	3	内装計画	-	1.0	1.00	1.0	0.50	
	1.3 維持管理			3.0	0.30		-	
	1	維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50		-	
	2	維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50		-	
2	耐用性・信頼性			2.9	0.30		-	2.9
	2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80		-	
	2	免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20		-	
	2.2 部品・部材の耐用年数			3.2	0.30		-	
	1	躯体材料の耐用年数	日本住宅性能表示基準「3.劣化の軽減に関すること」で等級3相当。	5.0	0.20		-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
	2.4 信頼性			2.6	0.20		-	
	1	空調・換気設備	-	3.0	0.20		-	
	2	給排水・衛生設備	-	2.0	0.20		-	
	3	電気設備	-	3.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法	-	3.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備	-	2.0	0.20		-	
3	対応性・更新性			3.2	0.30	2.2	1.00	2.5
	3.1 空間のゆとり				-	1.4	0.50	
	1	階高のゆとり	-		-	1.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	-		-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり				-	3.0	0.50	

3.3 設備の更新性				3.2	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		—	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		—	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		—	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		—	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	1.7
1	生物環境の保全と創出	緑化	—	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	緑化	—	2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	—	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化	—	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	3.4
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	4.0
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI= 0.88 品確法= BPI _m = 0.88 _g	4.2	0.20	-	-	4.2
2	自然エネルギー利用	省エネ	—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	省エネ	BEI= 0.72 —	4.6	0.50	-	-	4.6
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	省エネ	—	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	省エネ	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	省エネ	—	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	省エネ	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	2.9
1	水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1	節水		—	1.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		—	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1	材料使用量の削減	省資源	—	2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	省資源	—	3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	—	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	—	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	省資源	—	2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	LGS使用している。	4.0	0.20	-	-	

3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		—	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
	1 消火剤	省資源	—	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	省資源	ODP=0, GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	省資源	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 数地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1	地球温暖化への配慮	省資源	—	3.9	0.33	-	-	3.9
2	地域環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
	2.1 大気汚染防止	省資源	—	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 緑化 雪処理	—	2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	省資源	—	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制		—	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制		—	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	—	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1 騒音		—	3.0	1.00	-	-	
	2 振動		—	-	-	-	-	
	3 悪臭		—	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制		—	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制		—	-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制		—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		—	3.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		—	3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2021(ver.1.0)

1 建物概要						
建物名称	(仮称)南4条西6丁目建築計画		BEE	0.9	BEEランク	Bー
建物用途	ホテル					
延床面積	2,850.6	m ²				

2 重点項目への取り組み				レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★		<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>	
	省資源等	★★★★★			
	緑化	★★★★★			
	雪処理	★★★★★			

3. 重点項目のCASBEEスコア									
A 省エネルギー		(最高点	29.1	最低点	8.2)	合計	21.6点 / 29.1点
Q1 温熱環境	スコア	1.9	/3.1	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	3.4	/4.0		
Q1 光・視環境	スコア	3.5	/6.0	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2	/2.0		
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	9.2	/10.0		
				LR1 効率的運用	スコア	2.4	/4.0		
B 省資源等		(最高点	23.7	最低点	7.7)	合計	14.4点 / 23.7点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6	/1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.4	/9.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9	/2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.5	/1.9		
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.9	/5.0		
				LR3 地域環境への配慮	スコア	2.1	/4.4		
C 緑化		(最高点	15.3	最低点	3.1)	合計	5.2点 / 15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	0.9	/4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	/2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	2.4	/6.0						
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9	/2.3						
D 雪処理		(最高点	3.0	最低点	0)	合計	0.0点 / 3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	/1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	0.0	/2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数